

青年の力で「令和のまちづくり」を支える

町内には、「いつまでも活気があふれ、町民の笑顔が輝く町であってほしい」と活動続ける青年団体があります。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限されましたが、青年のがんばる姿が地域を活気づけ、たくさんの笑顔を生み出しています。人口減に負けず、子どもたちが将来地元に住みたくするような活動を続けています。

今回は、町内で活動する青年団体である訓子府町 4H クラブの細川琢未会長と訓子府町青年団体連絡協議会（以下、訓青協）の平田翔唯会長に話を聞きました。

訓子府町 4H クラブ

訓子府町青年団体連絡協議会

どのような団体ですか

4Hクラブは、町内に限らず農業に興味がある方、町の農業に携わっている青年で構成しています。現在は、男性20人、女性1人の合わせて21人で活動しています。

訓青協は、町内に住んでいる18歳以上の青年で構成しています。現在は、農家や役場など男性17人、女性3人の合わせて20人で活動しています。



どのような活動をしていますか

野菜の販売や会員で内容を決めて視察する道内研修、他地域との交流などを行っています。また、会員で題材を決めて、プロジェクト発表にも取り組んでいます。以前、土壌凍結の効果についての研究をまとめ、全国大会で優秀賞を受賞しました。同年代の方が集まっているため、会員同士の距離が近く、仕事の情報共有がしやすい環境にあります。先輩方の経験が会員に引き継がれ、仕事に生かされていると感じています。



例年では、ふるさとまつりやさむさむまつり、成人式、公民館事業などの手伝い、一泊研修、スポーツ大会を行っています。昨年は子どもたちと楽しむ会（谷口武彦代表）の方たちと「子ども花火フェス」を運営しました。日常では関わるこのない異業種の会員が集まっているため、知り合いが増え、会員同士が楽しみながら取り組んでいると思います。

人口減に負けず子どもたちが住みたくする活動を

活動していて気付いた町の魅力はありますか

イベントごとに大勢の町民が参加していて、人の集まりが良く、温かい印象があります。プロジェクト発表に取り組んでいたときも先輩方が快く協力してくれて、人の優しさも感じました。

公共施設などが充実し、生活しやすいところが魅力だと思います。また、青年たちの活動を見て、応援してくれる方たちがいて、「もつとがんばろう」という気持ちになります。

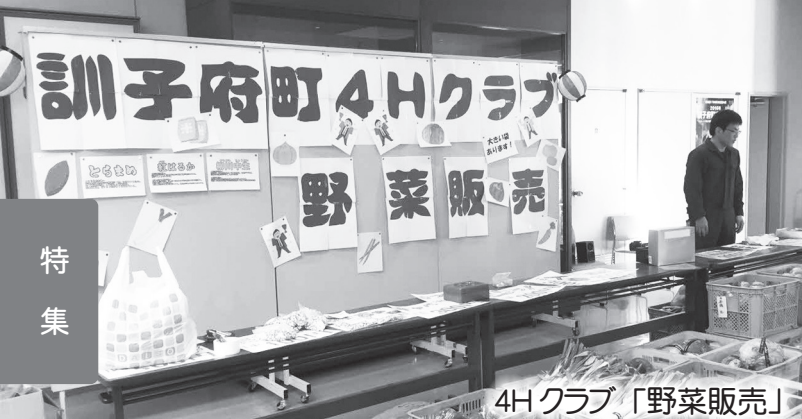
町にとってどのような団体でありたいですか

農業青年たちがそれぞれ技術を磨くことで、町全体のレベルアップにつなげ、「農業の町・訓子府」を担っていかれたらと思っています。

これから特に力を入れたいことは何ですか

4Hクラブも訓青協も会員不足が課題にあると思います。人口減少に伴い、農家戸数や青年層の減少が進んでいます。新規就農者や就職1年、2年目の方には声を掛け、積極的に宣伝していきます。

訓青協では、活動を知ってもらうためにポスター作りを行う予定です。興味のある方は、ぜひ参加してほしいですね。



4Hクラブ「野菜販売」



訓青協「公民館事業」



訓青協「子ども花火フェス」



4Hクラブ「凍結管製作」